

各 位

会 社 名 株式会社GRCS
代表者名 代表取締役社長 佐々木 慈和
コード番号：9250 東証グロース
問合せ先 取締役 田中 郁恵
TEL. 03-6272-9191

2025年11月期 第2四半期決算 質疑応答集

この質疑応答集は、2025年7月15日（火）に発表した2025年11月期 第2四半期の決算情報開示後に株主・投資家の皆さまからいただいたご質問及び当社で想定しておりました質問についてまとめたものです。

ご理解いただきやすいよう、一部表現の変更や内容の加筆・修正を行っております。

Q

第1、第2四半期は赤字着地となりましたが、下期以降でキャッチアップが可能とみてよいのでしょうか。

A

フィナンシャルテクノロジー事業において、案件受注の遅延が発生し、第2四半期の売上総利益が減少しておりますが、下期は他案件によるリカバリーを見込んでおります。
セキュリティソリューション事業、GRCプラットフォーム事業でも第2四半期までで売上拡大のための施策を打っており、通期達成できる見通しです。

Q

人材について、貴社ビジネスモデルでは採用が滞ると事業成長も停滞するのか、それとも少ない人数でも売り上げは立てられるのか教えてください。

A

セキュリティソリューション事業において、人材の確保は非常に重要な点であり、引き続き人材の量と質の確保を重視して参ります。同時に、既存社員の育成や従業員満足度の向上にも注力し、アップセルの機会増大やサービス向上による単価アップなど、人員数が不足する場合にも売上を確保できる体制を整えて参ります。

Q

前期は第1四半期で大型のスポット案件があったとのことですが、今期の通期業績予想へのそのような特大案件は見込まれるのでしょうか。

A

フィナンシャルテクノロジー事業で現在進めているシステム開発においては、トータルソリューションシステムによる網羅的なサービス提供だけでなく、モジュール単位での販売（目的に応じて細分化したサービス単位での販売）も視野に入れております。
これがクライアントのニーズに応じたサービス提供を可能にし、案件獲得の可能性を広げておりますので、すでに引き合いを頂いている件も含め、下期で獲得を目指して参ります。

Q

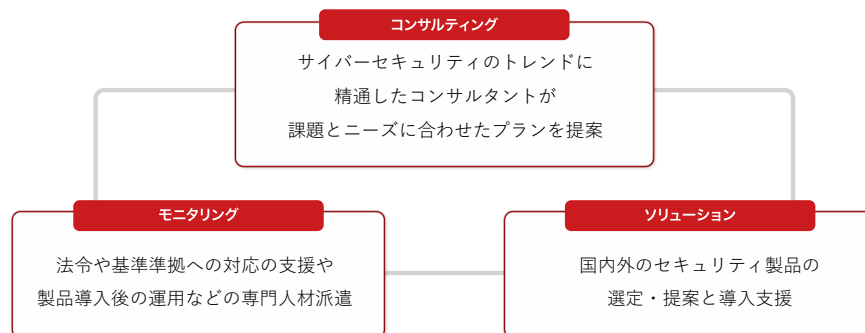
昨今サイバーセキュリティ関連における国の動きが活発になってきたように感じますが、貴社ビジネスへの影響はいかがでしょうか。

A

サイバー攻撃や詐欺の件数増加、内閣官房の「国家サイバー統括室」の発足など、サイバーセキュリティへの世間の関心はますます高まり、国策とも言われております。

多方面でのセキュリティ対策が求められるなか、コンサルティングから運用支援までワンストップで提供できることを強みとする当社サービスへのお問合せを多く頂いており、またリスク管理製品販売の事業も好調です。

今後も引き続きクライアントのニーズにお答えできるサイバーセキュリティ関連サービスを提供してまいります。



Q

株主還元への方針について教えてください。

A

株主の皆様への利益還元は現在検討しております。株価を意識したIR強化の方針も引き続き推し進めて参りますので、引き続き宜しく願いいたします。

以上

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。

これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、必ずしも既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。